

# 羊水検査に対する妊婦の気持ち

## Attitudes of Pregnant Women toward Amniotic Diagnosis

三宅智香子<sup>1)</sup>, 花輪ゆみ子<sup>2)</sup>, 杉田 節子<sup>2)</sup>, 森本眞寿代<sup>3)</sup>, 高田谷久美子<sup>4)</sup>

MIYAKE Chikako, HANAWA Yumiko, SUGITA Setsuko, MORIMOTO Masuyo, TAKATAYA Kumiko

### 要 旨

高齢妊婦の羊水検査の意思決定にあたっての迷い、情報の把握状況などがわからず、どのように関わればいいのか看護師が戸惑うことも少なくない。本研究では、高齢妊婦が羊水検査を受ける・受けないを決めるまで、また決めた後出産に至るまでどのような気持ちで妊娠期間を過ごしているかを明らかにすることにより、妊婦に対する看護師の役割を検討することを目的とした。

対象は平成14年度にA院で出産した35歳以上の妊婦で、羊水検査を受けたが結果に異常がなかった13名(A群)、羊水検査を受けなかった12名(B群)である。調査方法は、回想法による半構面面接法である。

その結果、A群で受けたのは<染色体異常児であれば妊娠継続が難しい>が8名、B群で受けなかったのは<障害の有無に関わらず産む>が7名、<羊水検査による結果が異常と出たときの対処に困る>が3名であった。しかし、いずれも妊娠期間を通して胎児や妊娠経過の異常の不安を口にしており、看護師は妊婦と向き合い、不安の状況を明らかにし関わっていく事が大切であることがわかった。

キーワード 高齢妊婦, 羊水検査, 胎児の受け止め方, 不安, 妊娠期間

Key Words Pregnant Women of an Advanced Age, Amniotic Diagnosis, Attitudes Towards Fetus, Anxiety, Duration of the Pregnancy

### 1. はじめに

羊水検査という言葉は、出生前診断のひとつとして広く知られるようになった。とくに35歳以上の妊婦は「高齢出産」と言われ、羊水検査の適応になっていることから、胎児に染色体異常がないという結果を得たいために検査を受ける妊婦もいると思われる。しかし、羊水検査の性質上、胎児の生命の選択を迫られることもあるため、妊婦にとって羊水検査の意思決定をすることは大きな問題となる。さらに、羊水検査を受けることができるのは、妊娠初期の限られた期間である。その短い期間の中で、妊婦は様々な情報を十分に理解・検討し、羊水検査を受けるか否かを決めなければならない。

安藤<sup>1)</sup>は、高齢妊婦は羊水検査を受けるか否かの意思決定に悩んでいる、また妊婦の状況により不安のレベルが変化することから、羊水検査の時期にとどまらず妊娠出産全期にわたり、持続的な関わりを保ちながら、妊婦の対処への連続的な評価や再評価の参加と精神的な支援が求められていると看護師の支援の必要性を指摘している。羊水検査は医療の現場に立つ医師や看護師にとっては日々の検査であっても、妊婦は羊水検査を受けるか否かを決定するにあたり、その気持ちは様々に揺れ動いていると考えられる。看護師の役割を明らかにすることが早急に求められている。

当院では35歳以上の高齢妊婦に対し希望があれば羊水検査を実施しているが、高齢妊婦の羊水検査の意思決定にあたっての迷い、情報の把握状況などについて看護師がわからないため、どのように関わればいいのか戸惑うことも少なくない。

そこで、高齢妊婦が羊水検査を受けるか否かを決定するにあたり、どのような要因が影響しているか、また羊水検査に対する意思決定後、出産に至るまでをどのような気持ちで過ごしていたのかを明らかにし、羊水検査を考える妊婦に関わる看護師の役割を検討することを目的として本研究を行った。

受理日：2008年2月18日

1) 長野市役所：City Hall of Nagano

2) 山梨大学医学部附属病院：University of Yamanashi University Hospital

3) 佐賀大学医学部附属病院：University of Saga University Hospital

4) 山梨大学大学院医学工学総合研究部(母子保健)：Interdisciplinary Graduates School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi

## II. 方法

### 1. 対象

平成14年度にA院で出産した35歳以上の妊婦で、羊水検査を受けて結果に異常がなかった妊婦13名(以下A群とする)、及び羊水検査を受けなかった妊婦15名(以下B群とする)の合計28名を対象とした。いずれも出産後6～16ヵ月(平均10ヵ月)経過していた。

### 2. 調査期間

平成15年3月～11月

### 3. 研究方法

インタビューガイドに基づく半構成面接法とカルテからの情報収集を組み合わせた。

面接時の質問内容を項目毎にまとめて以下に示す。

- 1) 羊水検査の知識(検査で何が分かるか, 検査方法, リスクについて)＜羊水検査について知っていましたか。どのようなことを知っていましたか。医師から羊水検査の説明はどのようにされましたか＞
- 2) 妊娠期間を通しての相談相手＜妊娠中の悩みは誰に相談しましたか。困ったことがあるとどう対処することが多いですか＞
- 3) 羊水検査に対する夫の意見＜ご主人の意見はどうでしたか＞
- 4) 妊婦の気持ちは便宜上, 次のⅠ期からⅢ期に分け, それぞれの時点について後方視的に調査した:①Ⅰ期:妊娠判明時＜妊娠して困ったこととありますか＞, ②Ⅱ期:羊水検査の説明を受けてから検査を受けるか否かを考え決めた時まで＜どのようなことで検査を受けるか受けないかを決めましたか。その

間の気持ちはどうでしたか＞, ③Ⅲ期:羊水検査を受けるか否かを決めてから出産まで＜羊水検査は他の検査と違いますか。結果が出るまで心配や不安はありましたか。出産まで心配はありましたか＞

なお, 面接時間は1時間以内とし, 場所は対象者と相談の上, プライバシーの守られる自宅, あるいは病院内の一室とした。

カルテからの情報収集は, 年齢, 職業, 出産経験, 妊娠分娩歴, 既往歴, 妊娠中の合併症, 不妊治療, 本人の性格についての基礎的事項とし, 事前に本人に承諾を得た。

### 4. 分析方法

全員の面接内容を録音テープから逐語録を作成し, 語られた内容を時系列に羅列し, 意味単位ごとにまとめデータ化した。

統計的解析には統計解析ソフトSPSS 11.5J for windowsを用いて行った。A群, B群の比較において年齢の比較はt検定を, 職業の有無, 既往歴, 妊娠歴, 不妊治療の経験の有無については $\chi^2$ 検定を行った。

### 5. 倫理的配慮

面接内容を研究目的以外には使用しないこと, 匿名性, 面接の中断・中止の自由の保証, それに伴う不利益のないことを明記した依頼状を郵送し, 後日電話で本人の承諾を確認した。面接時内容をテープに録音することの承諾を得て, 面接終了後結果を紙面にて報告し内容に相違はないことの確認を得た。また, 本研究を実施するにあたり, 山梨大学看護研究プロジェクト委員会の審査・承認を得た。

表1 羊水検査を受けたA群と受けなかったB群における属性の比較

項目	A群(n=13)	B群(n=12)	p値	
年齢	39.0±2.0歳	37.2±1.7歳	0.023 <sup>a</sup>	
職業	あり	0	5 教師・助産師・看護師 保育士・パート	0.015
	なし	13		
既往歴	あり	8	2	0.041 <sup>b</sup>
	（染色体異常児出産 流早産既往 母体合併症	2 2 4	1 1	
	なし	5	10	
妊娠歴	初産	5	3	n.s.
	経産	8	9	
不妊治療	あり	4	4	n.s.
	なし	9	8	

a: t検定, a以外は $\chi^2$ 検定 (Fisher)

b: 母体合併症を除き, 染色体異常児出産と流早産既往ありと既往歴なしで $\chi^2$ 検定を行うとp=0.001

表2 羊水検査を受けたA群と受けなかったB群の妊娠に対する受け止め方の比較

A群 (n=13)	
嬉しい・喜び	・嬉しかった (2) ・夫は喜んだ。再婚で夫のために欲しかったので、一応嬉しい ・すごいできたんだ ・あきらめかけていたのでびっくりした ・ほしくて予定してたから計画的にできてよかった ・自然にできたっていうのが嬉しかった
とまどい	・2人目で終わりと思っていたからどうしようと ・びっくりした。妊娠したので結婚した ・嬉しかったし、びっくりもした。困ったというわけでもないが予定外だったので複雑
不安	・高齢出産だし、体力的にも、子どもが奇形とかいろいろあるので大丈夫？って ・3回流産した後の妊娠で、またダメかもしれないというのが不安だった
達成感	・やっとなって感じだった
B群 (n=12)	
嬉しい	・嬉しかった (6) ・待ちに待ったから嬉しかった
とまどい	・最初の時は嬉しかったが、流産してしまった。今回は、夫と喧嘩している時期だったので複雑だった
不安	・3回の流産の後の妊娠でまたかなと不安だった ・ずっと欲しかったができなかった。できたときは万歳というより、ああそう、本当という感じ。ずっとできなかったもので、流産が心配で周りには言わなかった
驚き	・(結婚後)10年近くなっているので、自分に関係ないものと予定はしていなかったもので、びっくりした
淡々としていた	・3人目だったし、3人くらいいてもいいかなと思っていたので、特別嬉しいというわけではないがああそうかなって

### III. 結果

#### 1. 対象の背景

研究協力を依頼した28名のうち、3名が時間的に面接の都合がつかなかったため、最終的に協力が得られたのはA群13名、B群12名の合計25名であった(表1)。平均年齢はA群:39.0±2.0歳、B群:37.2±1.7歳とA群の方が高かった(p<.05)。職業では、A群は全員無職、B群では5名が有職で教師・医療職・保育士であった。既往歴があった者は、A群8名、B群2名とA群の方に多く(p<.05)、母体合併症を除いても染色体異常児出産や流産の経験者がA群に多かった(p=.001)。

#### 2. 時期別の妊婦の気持ち

##### 1) I期一妊娠判明時一の気持ち

妊娠がわかったときの妊娠に対する受け止め方は、両群とも「嬉しい」が最も多かった(表2)。

##### 2) II期一羊水検査の説明を受け検査を受けるか否か決めた時一の気持ち

妊娠初期に医師は、出産時35歳以上の妊婦全員に対して、35歳以上になると染色体異常児の出生率が高いという理由で、羊水検査を受けることができることを伝えている。妊婦が検査を希望しない旨を即答しない限り、検査方法やリスク、費用等の内容が具体的に説明される。今回医師の説明前から、羊水検査の名称と検査により明らかにされることについて知らなかったのはA群の2名

のみで、その他は全員既に知っていた。

A群において検査を受けると決めたのは、「できた命は大切だけど上の子にも負担がかかる」や「そういう子育て差別になるかもしれないが…育てていける自信がなかった」など、<染色体異常児であれば妊娠継続が難しい>というものであった(表3)。なお、これら8名は異常の結果が出た場合は中絶すると考えていた。その他、流産の危険性や異常があっても育てられると考える反面、異常が無いこと<安心>を得て妊娠経過を過ごしたいという思いから検査を受けることを決めていた者(3名)や「異常があっても育てていきたいので、勉強する時間がほしい」と<出産に向けての準備がしたい>ため検査を受けると決めていた者(1名)がいた。

一方、B群で羊水検査を受けないことに決めたのは、「どんな子でも育てていこうと思ったし、育てていけると思った」、「産むって決めていた」など<障害の有無に関わらず産む>とした者が7名であった。その他、<羊水検査による結果が異常と出たときの対処に困る>ため受けなかった者が3名みられた。

##### 3) III期一羊水検査を受けるか否かを決めてから出産まで一気持ち

A群における検査を受けると決めてから出産までの気持ちを表4に示した。検査までは、「痛みや流産が不安だった」や「…せっかく授かった子どもだし、だめになったらどうしようかな」と<検査時の痛みや検査のリスクが心配>とする者が8名であった。その他、検査の心配

表3 羊水検査を受けたA群と受けなかったB群の羊水検査を受けるか否か決めた時の気持ちの比較

A群 (n=13)	
染色体異常児であれば妊娠継続が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人目にしてダウン症の子を出産しても困る</li> <li>・友人が妊娠して検査したって聞いていたので、自分が妊娠して私もしなくてはと思っていた</li> <li>・(1人目38歳, 最初も今回も受けた) やっと授かった子だし流産の確率もあり主人と相談したが、私はどうしても受けたい。もし異常が出たら、今回の妊娠はなかったかもしれない</li> <li>・(医師から羊水検査の説明があり) 可能性があると言われ、生まれてからそういう結果では(児が)可哀想なので、生まれる前にわかっていればと考えた</li> <li>・自分の年齢や病気も含め心配が大きく、自分で受けようと思った部分もあるし、主人も受けた方がいいよって</li> <li>・できた命は大切だけど上の子にも負担がかかったりするわけだから</li> <li>・そういう子って差別になってしまうかもしれないけど、生まれてしまえば別だったかもしれないけど、やはりいまいち育ていける自信がなかった</li> <li>・夫の障害を持った子が生まれたとき、自分たちが亡くなった後どうするのかという考えにおれた。検査結果は100%ではないが、受けて結果が良ければ安心</li> </ul>
出産にむけての準備がしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(結婚前保育士) 近所にダウン症の子もいるし、(障害は) ダウン症ばかりではないし。もし障害があるとしたら自分で勉強する時間が欲しかったから</li> </ul>
出産に向けての安心のため	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恐れから受けた(一人目が障害を持っていた)。夫は授かったならどんな子どもでもと言うが、育てるのは私。100%の保証はないし、金額のことも考え、少しは悩んだが、それ(羊水検査)がなくては産めない</li> <li>・高齢出産(39歳)だったので、ダウン症の検査をしたいと言った。奇形があるか、先天的な異常があるかは姿を見るまでものすごく不安なので、心配の種の一つでも取り除きたかった。ダウン症だったらおろしたのかなという思いはあるけれども、多分安心して産みたかった</li> <li>・お腹に針刺して、少ない確率だが破水や流産などの可能性もあるため、受けた後何かあったら一番悩んだ。どういう状態であろうと産まなくてはいけないが、毎日大丈夫かなと思って過ごすより検査を受けて安心したかったから</li> </ul>
高齢なので医師から話をきいて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢出産が気になり、本に受けた方がいいというニュアンスで書いてあった。夫はわからないから、受けるなら受ければ。医師から話を聞き、そんなに重く考えずに、受けようと思った。後のことは全然考えていなかった</li> </ul>
B群 (n=12)	
障害の有無に関わらず産む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査をするか悩んだ。夫は受けた方がいいのではと言っていたが、リスクを聞いて考え直した。自分は元気だし大丈夫だと信じていた。どんな子どもでも育てていこうと思ったし、育てていけると思った</li> <li>・3人目だったし、産むって決めていたから。もしそんな子ども(ダウン症)が生まれたとしても自分たちの子どもだし、そのときは夫とともにその後どうしていこうかと考えると思う</li> <li>・(1人目の時に医師に羊水検査のこと聞いた) そのとき、もし万が一プラスだったらおろすのかというようなことを聞かれ、そういうつもりはないがわかりたいって。医師からある程度はエコーでも出産前にわかるときき納得した。染色体異常があってもおろすってことは考えないし、上の子と同じように(妊娠の)過程で(エコーで)わかる</li> <li>・自分はもともと受けるつもりはなかった。結果がどうあれ、産むでしょう。検査を受けても意味がない。もし検査でだめになったら困る。お金も高いし</li> <li>・生死の問題がかかっているというか、命の問題がありますよね。そういう検査をしてどういう結果が出たから、どうしようということもなかったの、特にする気もなかったんですけど</li> <li>・検査によって流産の危険性もあるのに、高い検査を受けるのもいやだねって夫と話していた。産まれてくるまではその子の命</li> <li>・(1人目の時高齢出産で羊水検査の話を書いた) 年齢的に確率も高くダウン症の子が生まれるかもしれない。でも仕事でダウン症の子を担任していたこともあり、それはそれで仕方がない。やっとなんか子なのにとんでもない。流産しては困るという不安の方が先。2人目の時も受ける気はなかった</li> </ul>
結果が異常とでたときの対処に困る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結局心音があるのを殺しちゃってことじゃないですか。産んでみておかしかったら、その子を育てていくっていう勇気もどうなんだろうって思ったし、でもそこでだめにしてしまう勇気もないし、だったら聞かないで、育てられる子だったら育てようっていう</li> <li>・4日くらいしか考える時間がなかった。夫はわかっていながら苦労したくないので、検査した方がいいと言ったが、自分は迷っていた。リスクが3%と書いてあり、今宿っている子がだめになる可能性があることで、すごく考えました。友達にも相談したが、2人とも受けなかった。みんな高齢で授かったから、いまさらわかったところで、どうにかできるのかって</li> <li>・リスクがあるから、赤ちゃんに刺さってしまうかもしれないと聞き、夫にもやらなくていいんじゃないと言われて。やっとなんか異常があったら怖いからしないと決めた</li> </ul>
受けるか否かの決め手がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな人に相談して、ダウン症だったらおろすのって。一番悩んだのが、受けるか受けないか決め手がないんですよ</li> </ul>
大丈夫だと信じ受けない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夫に話すと、どんな結果が出てても中絶する気はないと言っていた。また、俺は大丈夫、元気な子が生まれると思うとも。大丈夫だよって言ったの。そのやりとりの中で気持ちが楽になった</li> </ul>

表4 A群における羊水検査を受けると決めてから出産までの気持ち (n=13)

1. 検査まで	
痛みや検査のリスクが心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・羊水もまだあまりないのでといわれていたので、子どもの足に刺さったりしないか心配。お腹に針刺すのも不安。(流産のリスクは)もしそれで流産してしまうなら、それは運命で仕方がない</li> <li>・検査の方法は知らなかった。すべての異常はわからないってことはショックだった。受けたかったから悩まなかったが、流産の確率は怖かった</li> <li>・危険があると聞いていて、せっかく授かった子どもだし、もしだめになったらどうしようかなという不安はあった</li> <li>・流産の危険率とか怖かった</li> <li>・痛いかなってことより、流産の方が心配だった。検査の最中も子どもが大丈夫かなって、流産しないか、子どもに刺さってないかって</li> <li>・お腹に針を刺すっていうことの不安もあるし、検査をした後、結果を聞きに来るのが不安</li> <li>・痛みや流産が不安だった</li> <li>・針を刺すときの痛みが心配</li> </ul>
何も心配がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷いはしなかった</li> <li>・(今回は3度目の検査)今回は検査して安心を得ることで、コンマ何%かの流産の危険性とかは医師を信頼していたので心配しなかった</li> <li>・(2回目だったので)特にない。ただ、検査の時、医師だけでなく、看護師がいてくれたらよかった</li> <li>・(検査の手技は)よく見て真剣にやっているのがわかったから安心して受けた。ただ、検査の説明は具体的な方法とか、30分くらい時間をかけてしてほしい</li> </ul>
落ち着かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何週間かあったので落ち着かなかった</li> </ul>
2. 結果まで	
異常時の対処が決まっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるようにしかならないと思っていた。だめじゃだめ(産まない)って割り切った気持ちがあった</li> <li>・検査をしてから結果を聞くまで2週間くらいあったが、どきどきしていた。結果を聞く前日、もし結果が悪ければおろさなきゃいけないと思いつつ泣いていた</li> <li>・友達の子どもが障害があるが、歳を取ってからの子どもだから大変そうだし、私はそうでないといいなど。もしそうだったらしょうがない(産まない)と夫と話していた。結果のことが心配だった</li> <li>・エコーでよく見てくれたので安心していましたが、何かあったら、どうしたらいいのかわからないというのはあった。もうこの時期だし、どういう状態になろうと出産はしなくてはならない</li> </ul>
異常時の対処に悩む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受けると決めるまでは、検査を受けて異常があったら産まない決めていた。でも決めてから、今更おろせないって。これで異常が出たらどうしようとか、検査なんか止めた方がいいかなと</li> <li>・もし検査で異常が出た場合ってことが心配だった。もし障害を持って生まれてくるようなことがあれば、(育てるのは)自信がないと夫に言われた。私も夫婦でうまくいかないことが怖いし、その子が生まれた後で家の中がまずくなるのではその方が困ると言えば困るし</li> </ul>
何も考えられない・結果に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15週くらいでわかって異常が出たらどういうふうにするのかと医師に聞いたり。赤ちゃんの大きさはどのくらいとか、医師は結果が出てからでいいと。結果が出るまではもうもうって感じで手がつかなかった</li> <li>・結果を聞く日ばかりが頭にあって</li> <li>・すごく心配だった</li> <li>・不安だったんでしょね、きっと。もうしょうがないっていうか</li> <li>・異常があるといわれたらどうしようとどきどきしていた</li> </ul>
心配なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配なことはない。考えないようにしていた。もし何かあったらそのとき考えよう</li> <li>・結果までの2週間特になかった</li> </ul>
3. 結果を聞いたとき	
安心した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わざわざ結果を聞きに行ったという意識もなく、医師からもさらっと言われ、あー良かったみたいな</li> <li>・待たれなくて自分から聞いた。これで生き延びられるって</li> <li>・結果を聞いて安心した</li> <li>・最初は何ともなかったが近づくにつれ不安になりどきどきだった。結果の時は、一人の医師がずっとエコーで見えていて、他の医師が来てここがどうのと説明している。これは絶対に異常があるに違いないって。終わってから最後に「異常ありませんでした」って結果をほんとと渡されて、ほっとして性別見た</li> <li>・結果を聞く日ばかりが頭にあって。最初に即答で異常なかったと言われた。嬉しくて、嬉しくて</li> <li>・ほっとした(2)</li> </ul>

医師の説明・対応に不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果を2枚渡されたが1枚はどうみてよいかわからないし、2枚目は日本語ではなかった。でも医師が何でもないと言ったので何でもないんだと思った。欲を言えば日本語で書いてあるものを渡してもらえれば</li> <li>・結果の用紙を見せてくれたが見てもわからなくて</li> <li>・英語で書いた紙を渡されて、はっきり結果を言われなくて曖昧だった</li> <li>・異常がなかったからよかったが、結果がよかったなら早く言ってほしかった（こそこそと医師が説明したのかなどと確認していた）。医師の態度にむっとなった</li> <li>・結果がどうだろうってどきどきしていたのに、自分が思っているよりさらっと言われた。普通に言われたから、あっそうなんだって感じだった</li> </ul>
新たな心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染色体異常はなかったけど、生まれてくるまではわからないから心配だった</li> </ul>
4. 出産まで	
他の異常はないか心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果は絶対ではない。出ないとわからない部分もあるので大丈夫かなって。どうしようというのはないが、例えば10項目あるとすれば1つ終わった</li> <li>・羊水検査は一部の染色体の検査のためそれ以外の染色体が異常があったら…。本当にこれで何もなければ健康に生まれてくるとは限らないし、色々不安</li> <li>・染色体異常はなかったけど、生まれてくるまではわからないから心配だった</li> <li>・染色体は大丈夫だったけど、身体の部分が全部あるとかか、ちゃんと耳が聞こえるかなどが心配で。染色体ほどではなかったけど</li> <li>・五体満足で生まれるまでは安心できない (2)</li> <li>・歳が歳だったんでちゃんとした子が生まれてくるか心配だったし、羊水検査はしたけど生まれてくるまで心配だった</li> </ul>
早産の心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1人目は早産で染色体異常。2人目も早産) 26週以降継続できるか、原因がわからなかったから心配</li> <li>・度々痛みがあったので精神的に不安定になり、早く生まれたりすることがあるのかなあと</li> <li>・切迫早産で入院したので、早く生まれてしまわないか心配だった</li> </ul>
不安なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査で異常がなかったから大丈夫と思ひ、他には心配や不安はなかった</li> </ul>
とりあえず安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれるまで先天的な異常があるかもしれないという不安は普通にあったが、ただ、一つ不安がなくなりお腹が大きいつきの生活を楽しめた</li> <li>・(羊水検査で異常がなかった) そのことだけはちょっと安心できた</li> </ul>

はしていない者が4名みられたが、このうち2名は検査時看護者がいてくれた方がいいとか、説明にもう少し時間をかけてやってほしいなどの意見も述べていた。

医師は検査説明時に検査結果により妊娠継続するか否かも含め夫婦でよく検討するよう話すが、検査後結果がでるまでの気持ちをみると、染色体異常の結果がでた時の対処を考えていた者は4名で、受けると決めるまでは異常があれば産まないと決めていたにも関わらず、検査を受けると決めてからどうしていいか悩む、夫婦の意見が合わずに決められないと＜対処に悩む＞者が2名いた。また、「…結果が出るまではもうもうって感じで手が付かなかった」など＜何も考えられない＞状態で過ごしている者が5名いた。

医師により問題なしという結果を聞いたときの気持ちでは、「とりあえず安心した」と答えた者が9名であった。一方で、検査について悩んでいた妊婦は医師の説明が、「すぐに話してくれなかったの、異常があるに違いないと覚悟したが、あっけなくさらりと言われた」、「英語で結果が書かれていて曖昧だった」、「医師が他の医師と話していたので異常があると思った。患者がどういう思いで検査を受けているのか分かっていないと思った」など、医師の検査結果の説明に対する不満を感じた者が4名いた。

検査結果を聞いてから出産までは、＜とりあえず安心

>した者は2名のみで、胎児に羊水検査ではわからない異常はないか心配した者が6名、早産を心配した者が2名いた。

B群では、出産までの間、児の異常は考えないようにした者が2名、児の異常の有無を心配した者が5名であった(表5)。

### 3. 羊水検査を受けるか否かを決定する際の相談相手

羊水検査を受けるか否かを決定する時の夫婦の意見についてみると、A群、B群ともに夫と相談して決めた妊婦がほとんどであったが、夫のみでなく医師や家族、友人に意見を求める者もいた。検査を受けるか否かでは、17名と多くが夫と妊婦と同じ意見と答えていた。

## IV. 考察

羊水検査を受けたA群の中で8名が検査結果に異常があれば産まないと答えており、検査を受けた理由は、染色体異常児に対する家族の負担や、障害児を育てる自信のなさがあげられていた。しかし、A群の中でも異常の有無を知り出産後の準備をしたいという理由で受ける妊婦がいたことは、羊水検査が必ずしも出産の選択のためとして捉えられているのではない。一方B群では、7名

表5 B群における羊水検査を受けないと決めてから出産までの気持ち (n=12)

見に異常がないか 心配・不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(医師が) エコーをみてその都度答えてくれたので、出産の時は、100ではないけれど、奇形とか異常とかないってことで出産を迎えられた。毎回くどいように、口は閉じていますか？心臓は？と聞いた。そうしないと不安で不安で仕方がなかった</li> <li>・体外受精だったので、やはり自然じゃないじゃないですか。不思議じゃないですか。ちゃんとした子が生まれるのかなってというのはあった</li> <li>・五体満足に生まれてくるのか、というのはあった。生まれた直後、ちゃんと5本指があるか、ちゃんと赤ちゃんの形をしているのか、心配っていうのはおかしいけど不安だった</li> <li>・羊水検査のことは気にしないでいた。大きさが小さかったので、そっちの方が心配</li> <li>・(糖尿病) 自分の体に自信がなかったので、年齢的にダウン症とか生まれるまで心配だった</li> </ul>
早産への心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうことは何も考えなかった。お腹の張りや出血の方が、そっちの方が大丈夫なんだろうかって。異常があるというのは全然考えなかった</li> <li>・つっぱったりして、そっちの方がつらかったから、そんなこと(児の異常の有無)考えている余裕がなかった。仕事柄、早産が心配で、赤ちゃんの異常より早く生まれちゃったら困る。出血があったら困る、早産になったら困るという方に頭がいっぱい</li> </ul>
児の異常は考えない ようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(児の異常) 心配がなかったといえばそうだが、あまり自分の中で暗くなるのが嫌だったので考えなかった。生まれたら仕方がない。そういう子どもだったら仕方がないかなって。それもその子の命。出てくるまでは、お腹の子が元気かとか、心配は心配だった</li> <li>・生まれて会うまで心配なのはゼロではない。ただ超音波でわかる範囲では何も無い。100%ではないけど、何かこう大丈夫かなって思いで過ごしてきた</li> </ul>
心配はしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に悩みはなかった。検査を受けていればよかったとも思わない</li> <li>・特に心配なことはなかった。何かあれば医師が言ってくれると思っていたから</li> </ul>
生まれてから対処	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とにかく生まれたまま。生まれてから対処しようって</li> </ul>

が染色体異常の有無に関わらず自分の子どもとして胎児の存在を受け止めていた。しかし、命のことを考えると「結果が悪くてもダメにする勇気が無い」ために検査は受けていなくても、「児を育てる自信はない」という妊婦もみられた。玉井ら<sup>2)</sup>は、検査を受けると選択をしている場合でも、障害児を全面的に否定しているわけではない、また、検査を受けないと選択をした場合でも、自信を持ってどんな子どもでも受け容れるという気持ちになっているとは限らないと言っているが、本研究でも同様な妊婦の気持ちが明らかにされた。

A群の平均年齢は39.0歳とB群の37.2歳より高かった。美甘ら<sup>3)</sup>は、羊水検査を希望し来院した妊娠18週未満の妊婦を対象に意識調査を実施し、羊水検査を希望した理由の最多は「高齢妊娠(79.7%)」であったことを報告している。母親の年齢が高くなるほど染色体異常児の頻度が増加するといわれているため、その不安から検査を受けることにつながっていると考えられる。また今回、羊水検査という名称については医師の説明前より知っていた妊婦が全体の9割となっていた。直接の比較はできないが、我部山ら<sup>4)</sup>によると、助産学を学ぶ学生であっても、「羊水検査」と「超音波検査」を「聞いたことがある」「説明できる」と回答する者が80%であったことから考えると、高齢妊婦は羊水検査に対する関心が高いといえる。しかし、「流産のリスクを知らなかった」「腹部から針を刺すのではなく、下から(経腔的に)針を刺すと思っていた」「検査で染色体異常以外の異常も分かると思ってい

た」というように妊婦の持つ知識が必ずしも正しい内容ではないことも明らかになった。また、長谷川<sup>5)</sup>は、検査を紹介しただけでも「勧められた」と受け取る人が多いことを念頭に入れておかなければならないと述べているが、今回1名ではあったが、医師の説明により検査を勧められたと感じ、検査を受けていた。

医師による羊水検査の説明が妊婦に対して行われた後に、検査の説明は高齢妊婦すべてに行われることであり、勧めているものではないことを説明し、さらに妊婦自身が得られた情報を整理し、質問し考えることのできる環境を提供していく必要がある。前述の美甘の調査では、遺伝カウンセリングを実施することで、高齢妊娠を理由に羊水検査を希望した44名のうち16名は検査をキャンセルしたという。今回の結果で、検査を受けることを決めるのに「後のことは考えずに医師に話をきいて…」や「差別になるかもしれないが、育てる自信がない」などがみられたこと、羊水検査を実施しても100%不安が消えるわけではないことから、情報をきちんと伝え、妊婦が十分に理解できるよう時間をかけて話し合うことは大切である。

ところで益邑<sup>6)</sup>は、妊婦はいかに明確な理論で説明されても常に新しい不安や心配にとらわれる人と考え、その不安の受け皿を用意すべきであると述べている。医師の説明により羊水検査で明らかとなる異常は限られたものであること、エコーによってもある程度の情報が得られることで納得し、羊水検査を受けなかった妊婦が、エ

コーの度に医師に異常がないことを口に出して確認することで不安を軽減させていたこと、胎児に異常があれば中絶するつもりで羊水検査を受けることを決めた妊婦が、検査実施までの間に児の命の問題を考え、再びどうしていいか悩んでいたこと、検査で異常がないことがわかったにも関わらず、羊水検査では明らかにならない異常について出産まで心配していたこと、検査をしないことに決めた妊婦でも出産まで児の異常の有無について心配していたことを考えると、検査で異常がなかったからとか、こう決めていたからとか決めつけてしまわずに、時間を取って妊婦に向き合うことが大事であることがわかった。さらに、職業や前回の妊娠や流産などの既往によっても妊婦の妊娠経過中の様々な出来事に対する受け止め方が異なってくることなどの個別性を意識した関わりが必要である。

## V. 結論

以上から1)羊水検査を受ける妊婦であっても、結果が異常であった場合にきょうだいや家族の負担、育てる自信がないなどから<染色体異常児であれば妊娠継続が難しい>と中絶を考えている者、<出産の準備のため>に受ける者、一方受けなかった妊婦でも<障害の有無に関わらず産む>と決めていた者、<結果が異常と出たときの対処に困る>ため受けなかったと様々であること、2)検査を受けた・受けないに関わらず出産まで児や妊娠経過の異常に対する不安と妊娠経過を通じて気持ちの揺らぎや不安が存在することが明らかになった。このことから看護者は、時間を取って妊婦に向き合い、その気持ちを把握し関わっていくことが必要であることが示唆された。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、ご協力くださいましたお母様方に深く感謝いたします。

## 文献

- 1) 安藤広子(1994)高齢妊婦の羊水穿刺を「受けるか否か」意思決定に関する面接調査. 日本助産学会誌, 8(1): 42-48.
- 2) 玉井真理子, 武井とし子, 田中裕子, 他(2000)出生前診断の説明実施率と検査実施率および妊婦の意志決定. 母性衛生, 41(1): 124-132.
- 3) 美甘祥子, 松本豊美, 河見真美, 他(2003)羊水検査に対する妊婦の意識調査 遺伝カウンセリングから羊水検査を実施して結果判明の流れの中で. 日本遺伝カウンセリング学会誌, 24(2): 85-91.
- 4) 我部山キヨ子, 千菊洋子(2005)助産学教育における出生前診断の現状と課題 助産師学生の出生前診断に関する意識調査より. 健康科学: 京都大学医学部保健学科紀要, 1: 7-13.
- 5) 長谷川知子(1997)出生前診断を評価する 出生前のダウン症の告知とカウンセリング. 産婦人科の世界, 49(2): 109-111.
- 6) 益邑千草(1998)ダウン症の出生前検査 妊婦血清マーカースクリーニング検査と母子保健. ペリネイタルケア, 17(3): 223-230.